

## 銀行取付と流動性危機の理論的考察

一橋大学 比佐 章一

本稿では、群衆行動による流動性危機問題について分析をする。銀行取付や国際通貨危機などの金融危機は、短期貸付資金が長期資本へと転化される構造の下で起こる。そして預金者や投資家が、取付などの資金引上げ行動をおこなうことで、流動性危機が起こる。そして Holmstorm and Tirole (1986)では、流動性ショックを所与として扱ってきたが、本稿では情報の不完全なケースでの合理的な投資家の行動によって、説明が可能であることがわかった。すなわちこの現象は、これまで外生的に扱われてきた流動性ショックを、投資家の Herd Behavior 行動から説明することが可能となることが明らかになった。そして投資家の受け取る流動性ショックは、モラルハザードの度合いや情報の正確さなどによって決まってくる。特に情報が不正確であるほど、危機が引き起こされやすくなることがわかった。

このような状況では、預金や資金の流入を防ぐことはもちろんのこと、投資家がより正確な情報を入手できるようにすることで、危機発生の確率を削減することが可能となる。